

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略の進行管理について

1 経緯

- 「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、平成 27 年 10 月に「瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和 5 年 2 月、「瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略」に改称）（以下「瑞浪市版総合戦略」という）を策定した。
- 瑞浪市版総合戦略は令和 5 年度をもって計画期間が終了した。令和 6 年度からは第 7 次瑞浪市総合計画基本計画に移行し、引き続き外部評価を実施する。
- 瑞浪市版総合戦略を効果的・効率的に推進していくためには、各分野の外部有識者の参画が不可欠である。その手法について、次のとおり国から方針が示されている。これに従い、進行管理を行う。

7. PDCA サイクルの確立

7-1 PDCA サイクル

まち・ひと・しごと創生を実現するためには、従来の政策の反省の上に立ち、PDCA サイクルを確立することが必要です。具体的には、まず、効果的な総合戦略を策定し、着実に実施していくとともに、設定した数値目標等を基に、実施した施策・事業の効果を検証し、必要に応じて総合戦略を改訂するという一連のプロセスを実行していくことになります。

PDCA サイクル：PLAN-DO-CHECK-ACTION の略称。

PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の 4 つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。PLAN-DO として効果的な地方版総合戦略の策定・実施、CHECK として地方版総合戦略の成果の客観的な検証、ACTION として検証結果を踏まえた施策の見直しや地方版総合戦略の改訂を行うことが求められる。

7-2 外部有識者の参画

総合戦略の効果検証に際しては、その妥当性・客観性を担保するため、行政の中だけで行うのではなく、推進組織（幅広い年齢層からなる住民をはじめ、産業界・市町村や国の関係行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア（産官学金労言）等で構成する推進組織）などを活用して、外部有識者等の参画を得ることが重要です。

地方版総合戦略策定のための手引きより（H27.1 内閣府地方創生推進室）

2 効果検証

- 国の地方創生交付金効果検証の手法を活用し効率的な検証を行う。
- 1 次評価（内部評価）

各担当課において、瑞浪市版総合戦略事業について、重要業績評価指標（KPI）の実績値、実績値に対する分析、得られたノウハウにより、事業効果（4段階）と事業評価（2段階）を行い、実績値を踏まえた事業の今後の方針を示す。

○ 2次評価（外部評価）

1次評価から産官学金労言士及び公募参加者により構成される「瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議」（参加者9名：別紙資料1参照）により、事業効果と達成度、今後の方針で評価を行う。

3 瑞浪市版総合戦略のフォローアップ

- 瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議は、11月頃までの期間で、年3回程度開催する。（4回目は座長のみ）謝礼支出（5,000円/回）
- 庁議に、1次評価及び2次評価の意見を報告し、瑞浪市版総合戦略全体のマネジメントサイクルに基づくフォローアップと見直しを行う。

4 スケジュール

- 別紙資料2-2参照